

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	神奈川県
-------	------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	横浜市立桜台小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	2	2	2	2	2	16	
児童数	98	83	67	80	74	76	2	480	23

研究の概要

1. 研究主題

<p>意欲的に学び続け、自分を高めようとする子の育成 ~ 確かな学力向上をめざした、効果的な少人数指導の工夫 ~</p>

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>・全学年・算数 内容の系統性と学習の連続性が明確であり、少人数指導での効果が期待できる教科であるため。</p>

(2) 年次ごとの計画

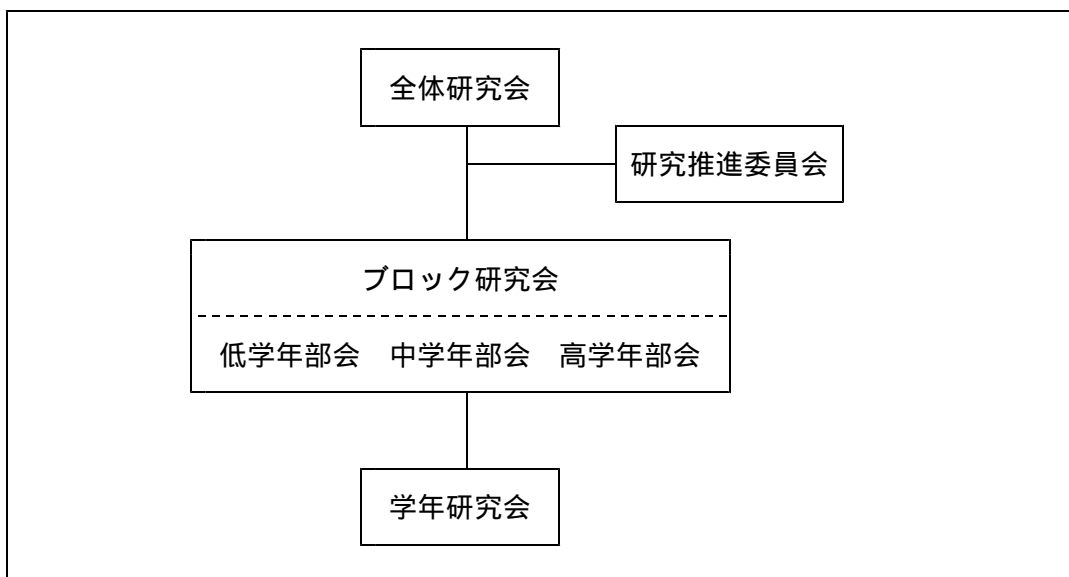
平成14年度	<p>テーマ 「確かな学力向上のための柔軟な指導体制」 ~ 算数科の少人数指導を中心に ~</p> <p>研究の見通し(仮説) 一人ひとりの子どもにとって、よりよい学びの環境を整えば、学習意欲が高まり、主体的な学習の中で確かな学力が身に付くであろう。</p> <p>研究の内容・方法 ・子ども一人ひとりの学習を保障し、十分な支援ができるための柔軟な指導体制を作る。~ 算数の少人数指導を中心に ~ ・算数科の指導方法を研究し、個に応じた指導を工夫する。 ・学力向上に向けて、基礎・基本の定着、学習意欲を高めるための方法を工夫する。</p>
--------	---

平成15	<p>テーマ 「意欲的に学び続け、自分を高めようとする子の育成」 ~ 確かな学力向上をめざした、効果的な少人数指導の工夫 ~</p>
------	--

年度	<p>研究の見通し 一人ひとりの子どもにとって、よりよい学びの環境を整えば、学習意欲が高まり、主体的な学習の中で確かな学力が身に付くであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数科における少人数の指導計画の充実と個に応じた多様な指導方法を探る。 ・学年の発達段階、単元の特性による少人数集団編成のねらいを明らかにする。 ・学力向上に向けて、基礎・基本の定着、学習意欲を高めるための方法を工夫する。 <p>研究テーマの変更について 柔軟な指導体制のもと、学習意欲を高め、基礎・基本の定着を図り、学力向上をめざすため。</p>
----	---

平成16年度	<p>テーマ 「意欲的に学び続け、自分を高めようとする子の育成」 ～確かな学力向上をめざした、効果的な少人数指導の工夫～</p> <p>研究の見通し 一人ひとりの子どもにとって、よりよい学びの環境を整えば、学習意欲が高まり、主体的な学習の中で確かな学力が身に付くであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数科における少人数の指導計画の充実と個に応じた多様な指導方法を探る。 ・学年の発達段階、単元の特性による少人数集団編成のねらいを明らかにする。 ・学力向上に向けて、基礎・基本の定着、学習意欲を高めるための方法を工夫する。
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- 子どもの姿から
- ・毎時間の学習への集中力が高まり、子ども一人ひとりが真剣に問題解決に取り組むことができた。
 - ・他の一斉学習ではあまり発言しない子どもが、算数の少人数では進んで発表したり、子ども同士の活発なやりとりが多くなったりした。
 - ・自力解決の力が高まり、多様な考え方で問題解決することができるようになった。習熟度別の基礎グループ、発展グループどちらにも多様な考え方が深まった。
 - ・算数日記、学習の振り返りカードなどの取組から、自己評価の力がつき、自分の考え方や友達の考え方を比較して、互いのよさを見つけたり、次の学習につながる問題を発見したりすることができた。
 - ・グループ選択の基準を自己評価と関連づけて考えることができるようになった。
 - ・基礎・基本が確実に定着している様子が、テストの結果などから見える。
 - ・算数でつけた自信が、他教科の積極的な取組にも見られる子どもがいる。

指導者の実践から

- ・子ども一人ひとりの様子をきめ細かく見て指導することができた。
- ・ノートや算数日記、振り返りカードなどから、毎時間ごとの評価を行い、必要な支援を考え、準備することができた。
- ・習熟度別の学習計画を立てる際、子どもに合った指導計画、教材の工夫を考えることができた。
- ・担任と少人数指導担当者による複数で指導することが、子どもを多面的に評価することにつながった。
- ・2年生以上は各学年に少人数指導担当者を配置したことで、打ち合わせの時間を確保しやすかった。

2. 今後の課題

- ・今年度は、均等分け、習熟度別の指導計画立案について成果を得られたが、課題別の指導計画立案についても単元を開拓する。
- ・習熟度別については、さらに補充、発展的内容を取り入れるなどしてコースの違いを明らかにし、個に応じた指導の充実を図る。
- ・1年生においても、学校生活に慣れ、集団として落ち着く後期から、算数の少人数指導を取り入れ、学校全体として少人数指導に取り組み、学力向上をめざす。
- ・全学年学級型少人数指導を実施するための、人的配置をどのように実現するか年間を通した少人数指導のあり方を工夫する。
- ・研究最終年度として、算数の少人数指導を中心に、柔軟な指導体制の取組から始まった3年間の研究成果を文書にまとめ、報告する。

学力等把握のための学校としての取組

- ・指導と評価の一体化を図るため、日常の学習状況を把握し、次の指導に生かしている。
- ・新しい単元の学習に入る前に事前テストを行い、習熟度別のコース選択に生かしている。
- ・横浜市標準学力診断検査（年1回4月実施）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・保護者説明会
9月学校説明会でフロンティアスクールとしての実践内容を説明
- ・学校便り・学年便り
学校便り・学年便り等で、保護者、地域へ取組の内容・方法及び子どもの様子などを発信
- ・平成15年11月20日（木）公開授業研究会
横浜市内、神奈川県内の各学校、保護者、地域の方へ授業を公開
研究内容と実践の報告を行った。
- ・パンフレットの作成
研究内容を紹介するパンフレットを作成し、各学校に配布
- ・平成16年2月16日（月）学力向上フロンティアスクール発表会・少人数指導学習会
横浜市全校対象に研究成果の発表

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無